



MITSUI CHEMICALS, INC.

三井化学

「経営概況」説明会

2012年11月14日

三井化学株式会社

社長 田中 稔一

1. はじめに
2. 2012年度業績
3. 中期経営計画の進捗
4. 中計進捗のトピックス
5. さいごに

1-1. 岩国大竹工場 爆発火災事故について

◆事故の概要

※詳細は、HP掲載の「岩国大竹工場 爆発火災事故について」をご覧ください。

- ・4/22 レゾルシンプラント (RS) の酸化反応器にて爆発火災事故が発生
- ・事故の直接原因は、RSプラントの緊急停止スイッチを解除したことと特定
- ・8/15再発防止策が承認され、類似プラントへも再発防止策を水平展開
- ・事故調査委員会では、更に深層原因(安全基盤や組織・風土に係る原因)とその対策についても検討を行っている。

◆被害状況

- (1)人的被害 : 26名の死傷 (社外の方: 16名、社員・協力会社: 10名)
- (2)物的被害 : 家屋損傷計: 999軒 (修復完了)

◆運転再開状況

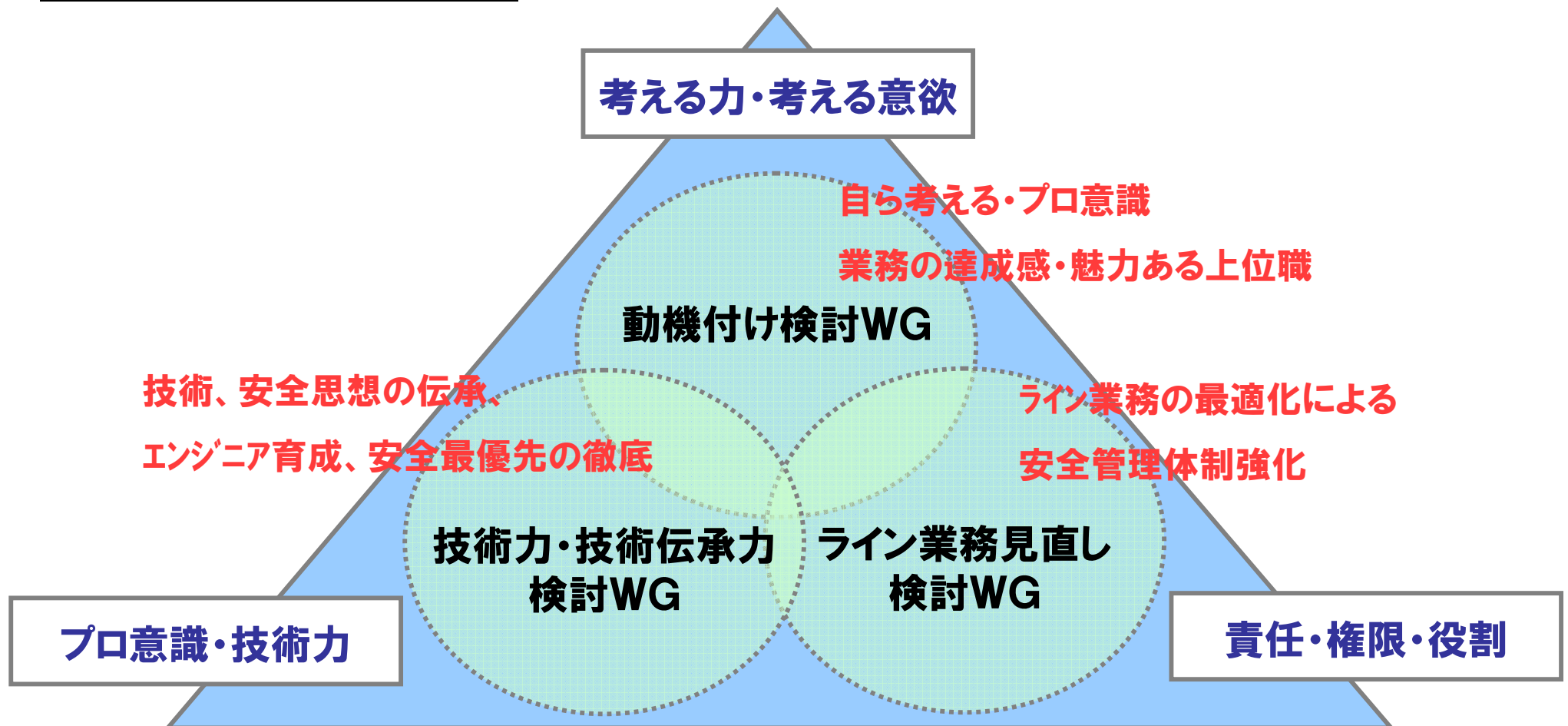
- ・RS、HQを除き運転再開(CYは市原で生産中)
- ・HQは安全対策見直し後の再稼動に向け、関係官庁への申請を含めて対応中。
- ・現時点では、保険等の補填を含めても▲60億円の影響を受ける見込み

1-2. 抜本的な安全検討委員会について

抜本的な安全検討委員会を設置(6月)

今年度中に対策を立案

- ・社長を委員長とし、社外の有識者を加え全社的なチームを設置。
- ・設備面の整備に万全を期すとともに、人、組織、技術、文化等に潜む根本原因を追究し、3つの観点から、安全の基礎となる部分の強化対策立案と実施を行う「抜本的な安全の見直し」を行なっている。



1. はじめに
- 2. 2012年度業績**
3. 中期経営計画の進捗
4. 中計進捗のトピックス
5. さいごに

2-1. '12年度上期決算と年度見通し①

(単位:億円)

摘要	11年度決算		12年度予想		12年度予想(前回) (12.8.7発表)	
	4-9月	年度	4-9月決算	年度	4-9月	年度
売上高	7,558	14,540	6,805	14,300	6,950	15,100
営業利益	287	216	15	230	50	320
営業外損益	△ 8	13	△ 40	△ 50	△ 40	△ 30
経常利益	279	229	△ 25	180	10	290
特別損益	△ 1	△ 65	△ 90	△ 30	△ 90	△ 110
税金等調整前 当期純利益	278	164	△ 115	150	△ 80	180
当期純利益	134	△ 10	△ 153	50	△ 120	80
為替レート(円/\$)	80	79	79	80	79	79
国産ナフサ(円/KL)	57,000	54,900	55,200	55,100	53,300	51,700

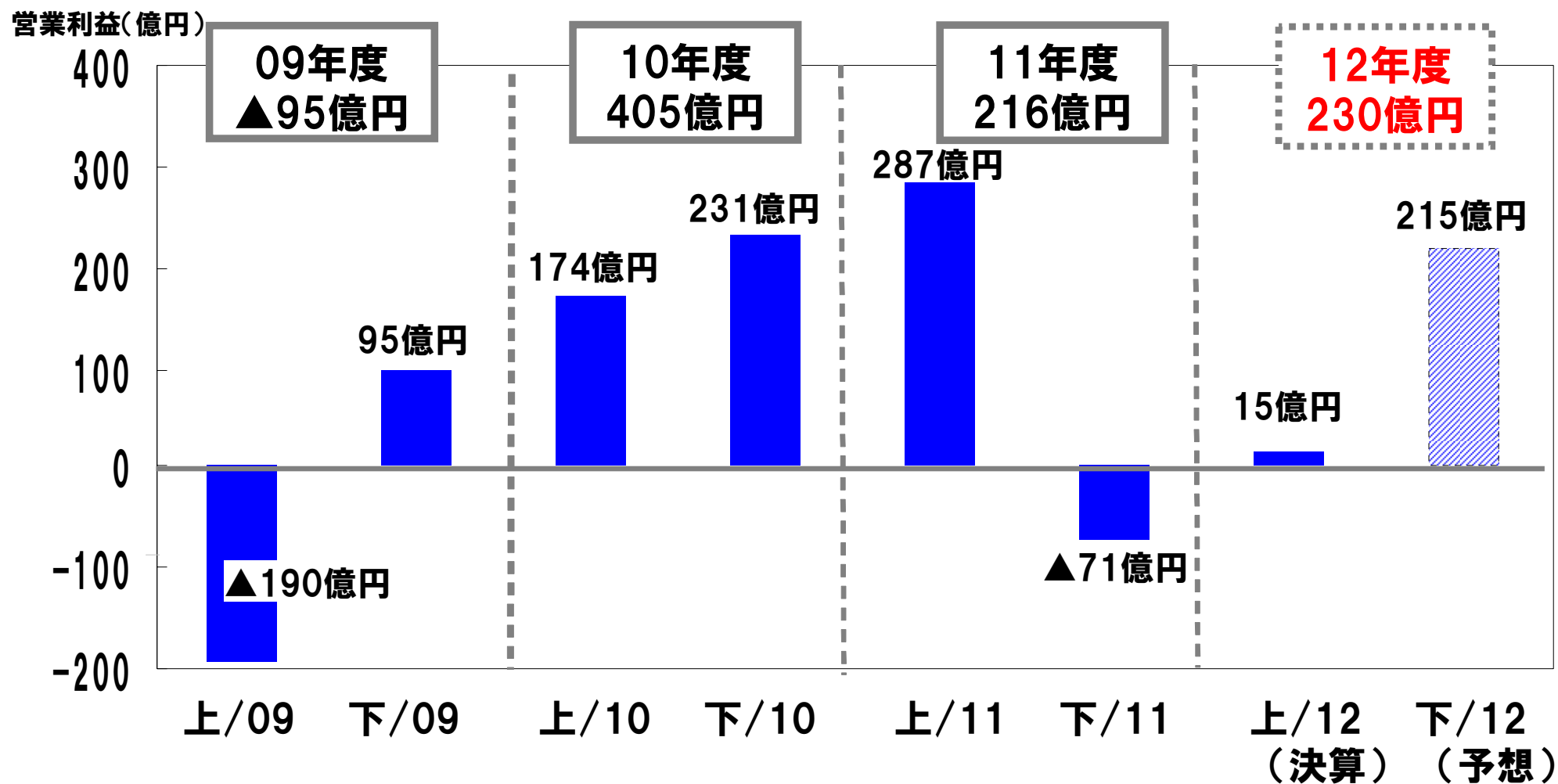
2-1. '12年度上期決算と年度見通し②

(単位:億円)

セグメント	11年度 通期 決算	12年度			対前年
		上期 決算	下期 予想	通期 予想	
石 化	89	15	90	105	16
基礎化学品	86	△70	△10	△80	△166
ウレタン	△146	△18	23	5	151
機能樹脂	82	47	58	105	23
機能化学品	117	72	78	150	33
フィルム・シート	2	△15	△15	△30	△32
合計 (その他含む)	216	15	215	230	14

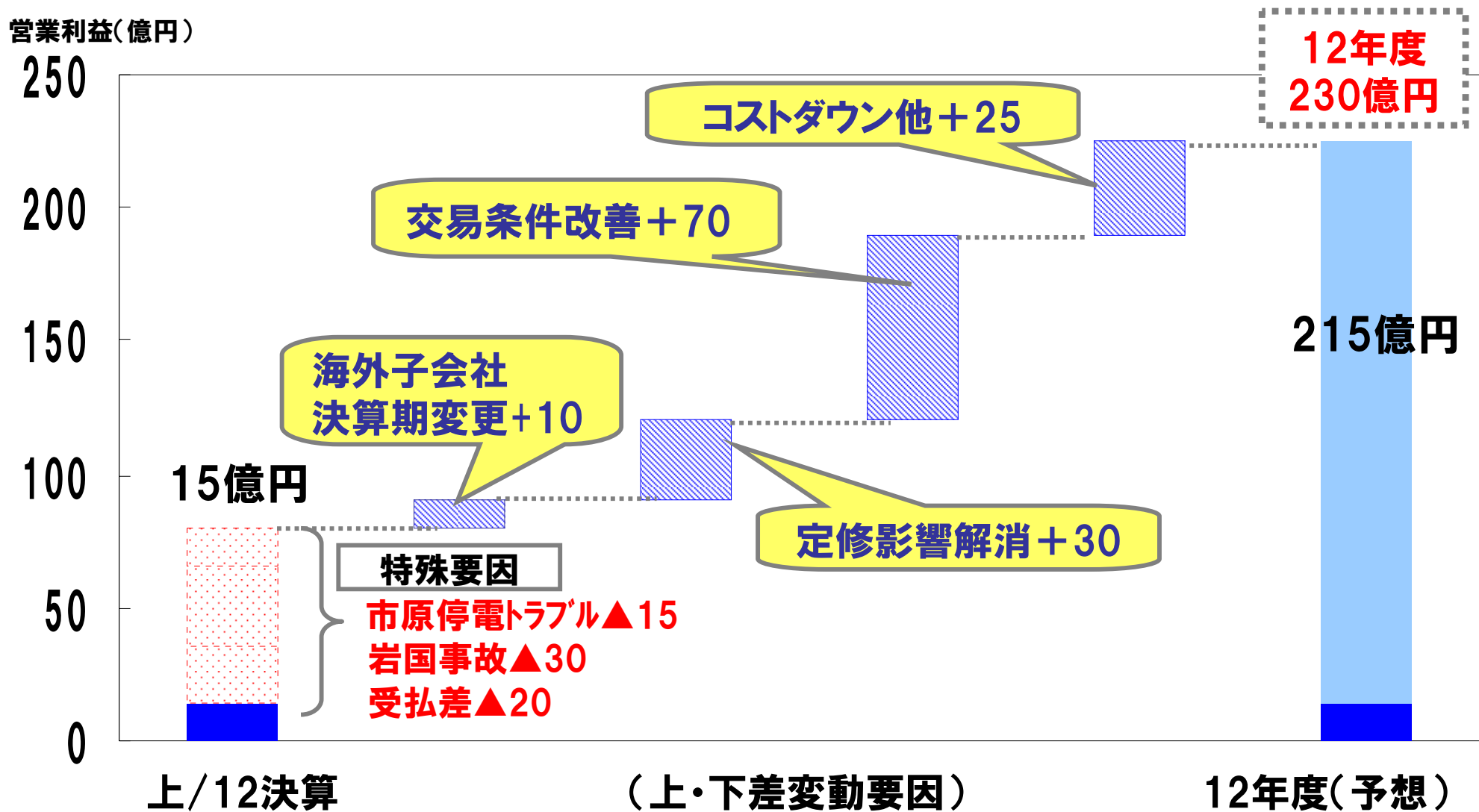
2-2. '12年度 営業損益推移

- ・12年度は**営業利益230億円**を目指す
- ・上/12年度は、8/7発表の見通しと比べ、
市原停電トラブル、基礎化の需要後退による影響で減益



2-3. '12年度 営業損益見通し

◆上期決算(15億円)と下期見通し(215億円)は、
特殊要因もあり大きく差が出ている



2-4. 12年度下期環境分析

◆上期決算 15億円(対前回 ▲35億円)

- ・市原停電トラブル、基礎化の需要後退

◆下期見通し 215億円(対前回▲55億円)

- ・円高修正局面にあるが、下期は80円/US\$と予想
- ・北米、ASEANの自動車生産好調
- ・北米住宅市場回復するなど個人消費増加へ
- ・原油、ナフサの高止まり継続
- ・欧州景気後退の長期化
- ・日中関係の影響は軽微

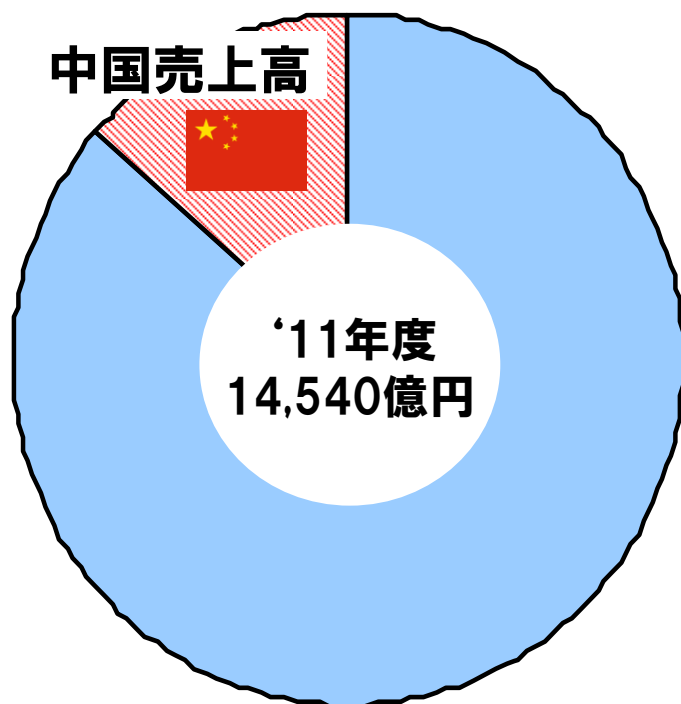
◆年度見通し 230億円(対前回▲90億円)

- ・石化は定修影響解消、PPコンパウンド好調で、収益確保
- ・基礎化は12年4-6月の最悪期を脱し、在庫消化が進み回復基調
- ・ウレタンは下期需要期での増販、スプレッド改善で黒字化へ
- ・機能樹脂、機能化学品は、安定的に収益拡大へ

2-5. 中国ビジネスの状況

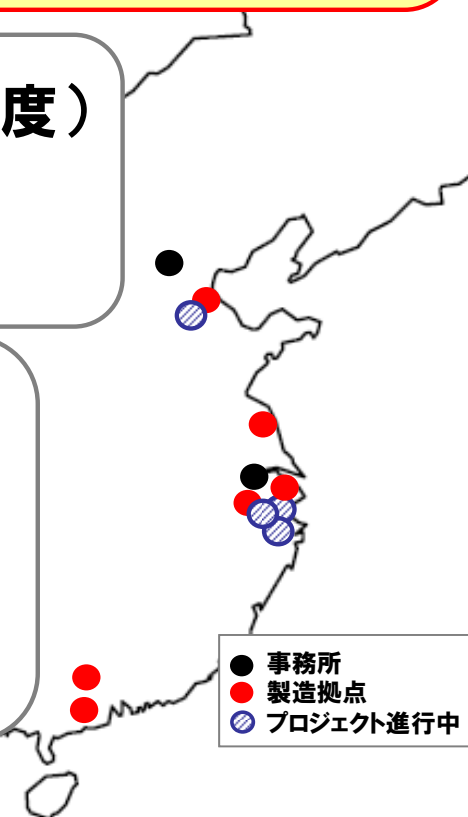
◆**大型事業・プロジェクトはSinopec社と合併**
 (フェノール、EPT、BPA、ウレタンシステムハウス)

◆PPコンパウンドに影響が予想されるが、**全体としては限定的**



中国売上高:約2,000億円(2011年度)
 中国売上比率:約14%
 連結人員:約550名

- ・製造拠点6拠点
- ・事務所2拠点
- ・プロジェクト進行中は4拠点
(フェノール、EPT、不織布、機能性コンパウンド)



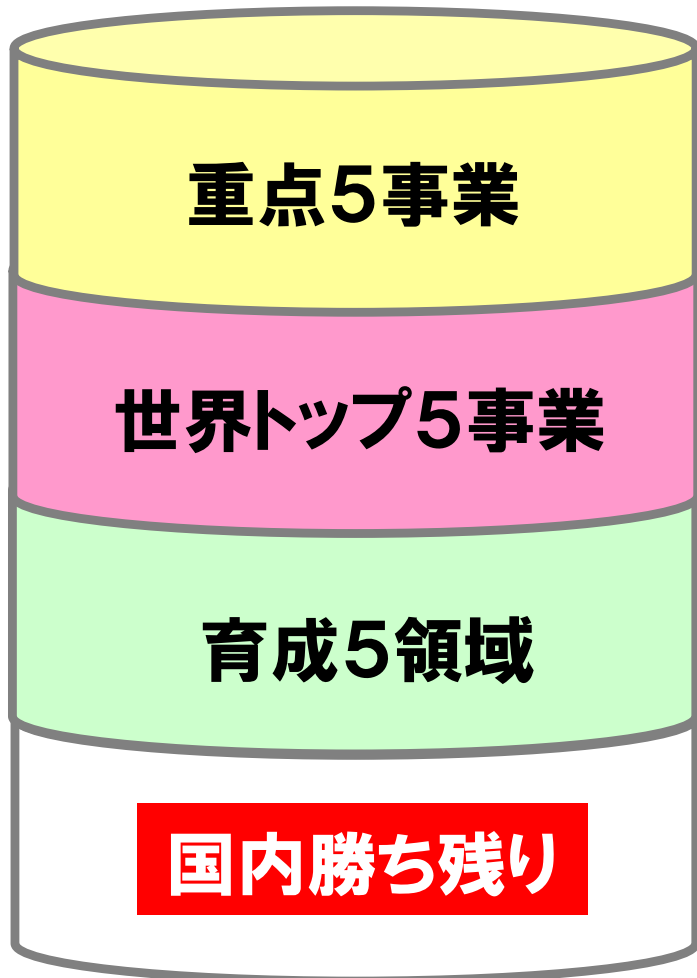
日中関係の問題は限定的だが、中国の景気減速に懸念

1. はじめに
2. 2012年度業績
- 3. 中期経営計画の進捗**
4. 中計進捗のトピックス
5. さいごに

3-1. 11中計の基本戦略 「5-5-5戦略」

- あるべき姿 -

- ◆成長性と持続性を実現する**事業ポートフォリオの構築**
- ◆**アジアを中心にグローバルに存在感**のある化学会社



景気変動を受け難い事業の拡大

- ・戦略的M & Aによる機能化学品拡大

競争優位事業のグローバル拡大

- ・有力パートナーとの連携、競争力ある原料の確保

将来のコア事業創出

- ・R & D資源の集中化・効率化、ビジネスモデル構築

徹底的なコストダウンと抜本的な再構築

- ・ウレタン原材料の事業再構築、コストダウン

3-2. 「5-5-5戦略」

重点5事業

1. 精密化学品
2. 農業化学品
3. 機能フィルム・シート
不織布
4. コーティング・接着剤
5. エンプラ・コンパウンド

世界トップ5事業

1. フェノール・チェーン
2. ポリオレフィン系
コンパウンド
3. エラストマー
4. メタロセンポリマー
5. メガネレンズモノマー

育成5領域

1. 太陽光発電
2. 電子・情報フィルム
3. 次世代機能化学品
4. エコ自動車材
5. バイオマス化学品

3-3. 「5-5-5戦略」進捗状況

中計に基づき、個別事業戦略の具体化を推進(効果は13年以降)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014以降
重点5事業				
1.精密化学品		★日) バイオ法AAM新設	★韓) 触媒新設	
2.農業化学品	★タイ拠点、ブラジル拠点	マレーシア) ソーラーEVA新設		★ブルネイPJ
3.機能フィルム・シート 不織布	★日) ソーラーEVA増強	★日) 不織布増強	★タイ) 高性能フィルム新設 ★中) 不織布新設	
4.コーティング・接着剤	★中) ウレタンシステムハウス新設			
5.エンブラコンパウンド		★日) HZミリオン増強		
世界トップ5事業				
1.フェノール・チェーン			★日) AC法IPA新設	★中) フェノール新設
2.PO系コンパウンド	★北米) PP-CPD増強	★ブラジル拠点新設	★中) PP-CPD増強	★中) 華東拠点新設
	★中) PP-CPD増強	★タイ) PP-CPD増強	★北米) PP-CPD増強	★MEX) PP-CPD増強
		★MEX) PP-CPD増強	★中) PP-CPD増強	★中) PP-CPD増強
3.エラストマー			★星) TF増強	★中) EPT新設
4.メタロセンポリマー				★星) EVL新設
5.メガネレンズモノマー	★スイス) ACOMON買収			

3-4. 重点強化分野への集中

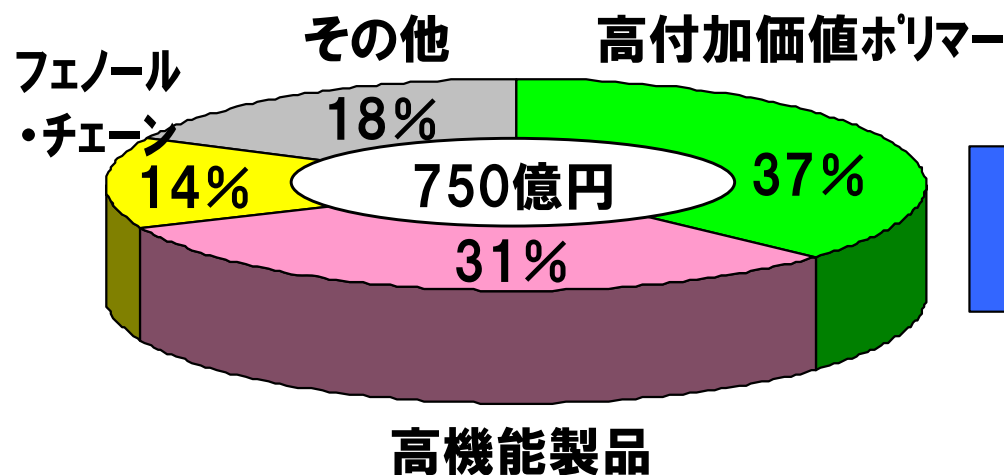
経営資源を以下の3つの重点強化分野に集中し、グローバルに存在感ある化学会社として、営業利益1,000億円を目指す

- ① 高機能触媒等、独自技術をベースとする **高付加価値ポリマー群**
⇒高機能化、海外展開の拡大・加速
 - メタロセン・ポリマーズ(エボリュ、タフマー、EPT)
 - 高機能コンパウンド(PPコンパウンド、アドマー)
- ② 健康・高齢化や食糧確保等の社会要請に対応する **高機能製品群**
⇒M&Aや提携による早期事業拡大
 - ヘルスケア(メガネレンズモノマー、歯科材料、不織布)
 - 農業化学品(農薬など)
- ③ 世界的に存在感のある **フェノール・チェーン製品群**
⇒余剰アセトン対策、誘導品の強化、コストダウン

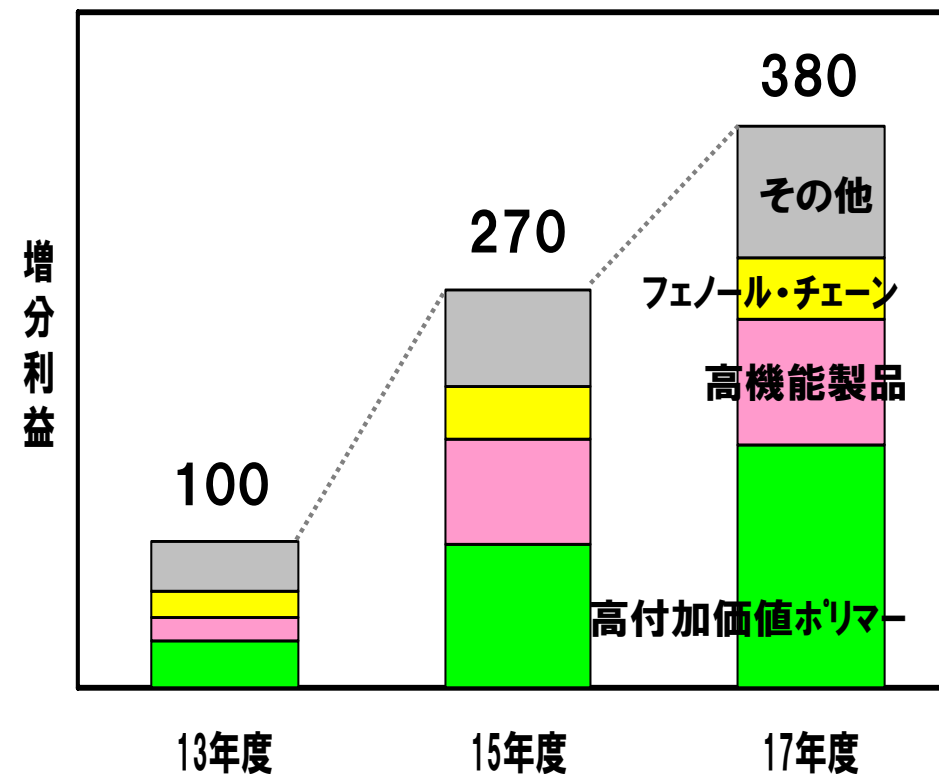
3-5. 重点強化分野への投資計画

- ◆3つの重点強化分野に、成長投資の80%以上を投入
- ◆11中計期間中の成長投資の効果は、2014年度以降に急拡大

11-13年度成長投資



投資効果

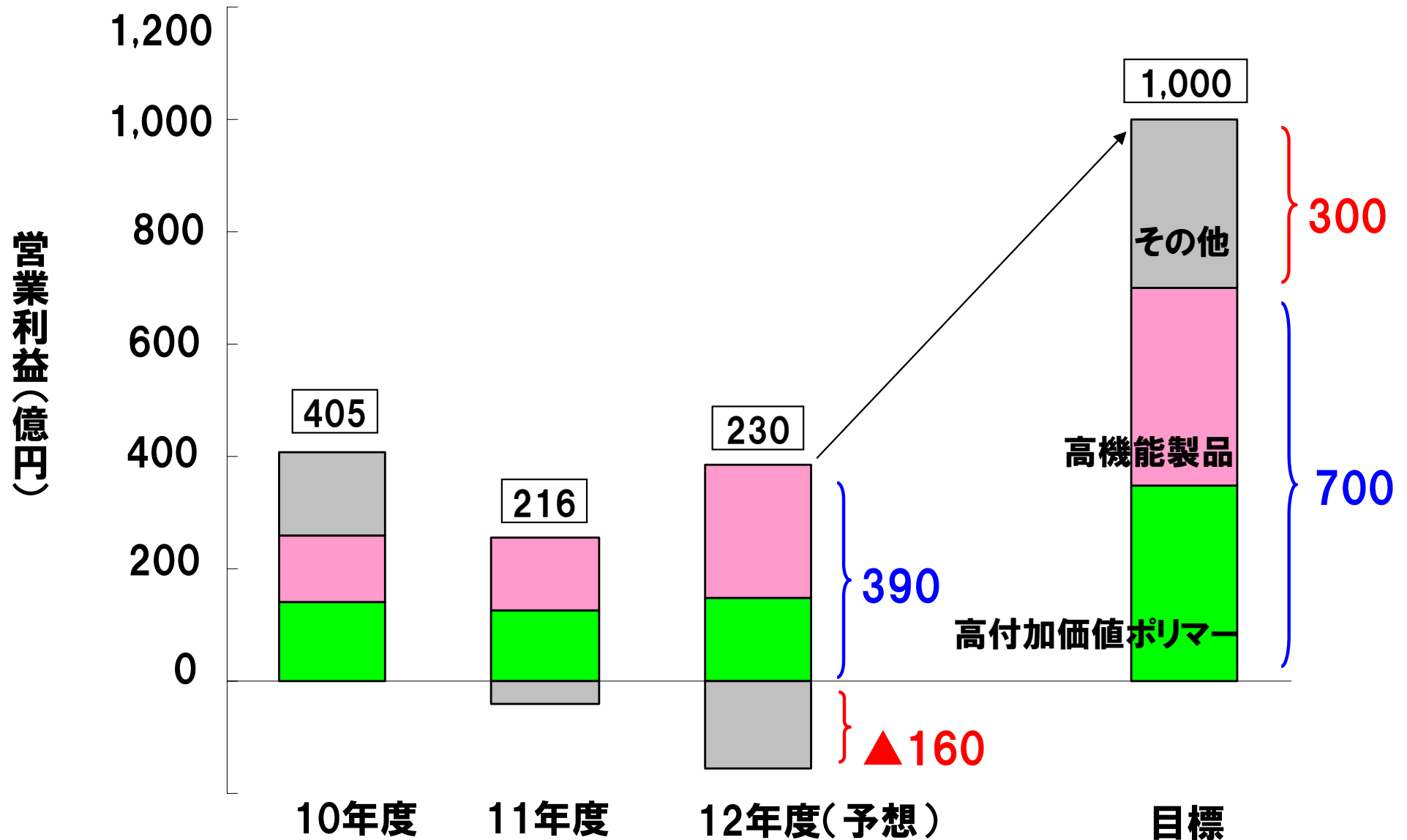


M&Aを含む全社プロジェクトは外枠として確保

3-6. ポートフォリオの変革

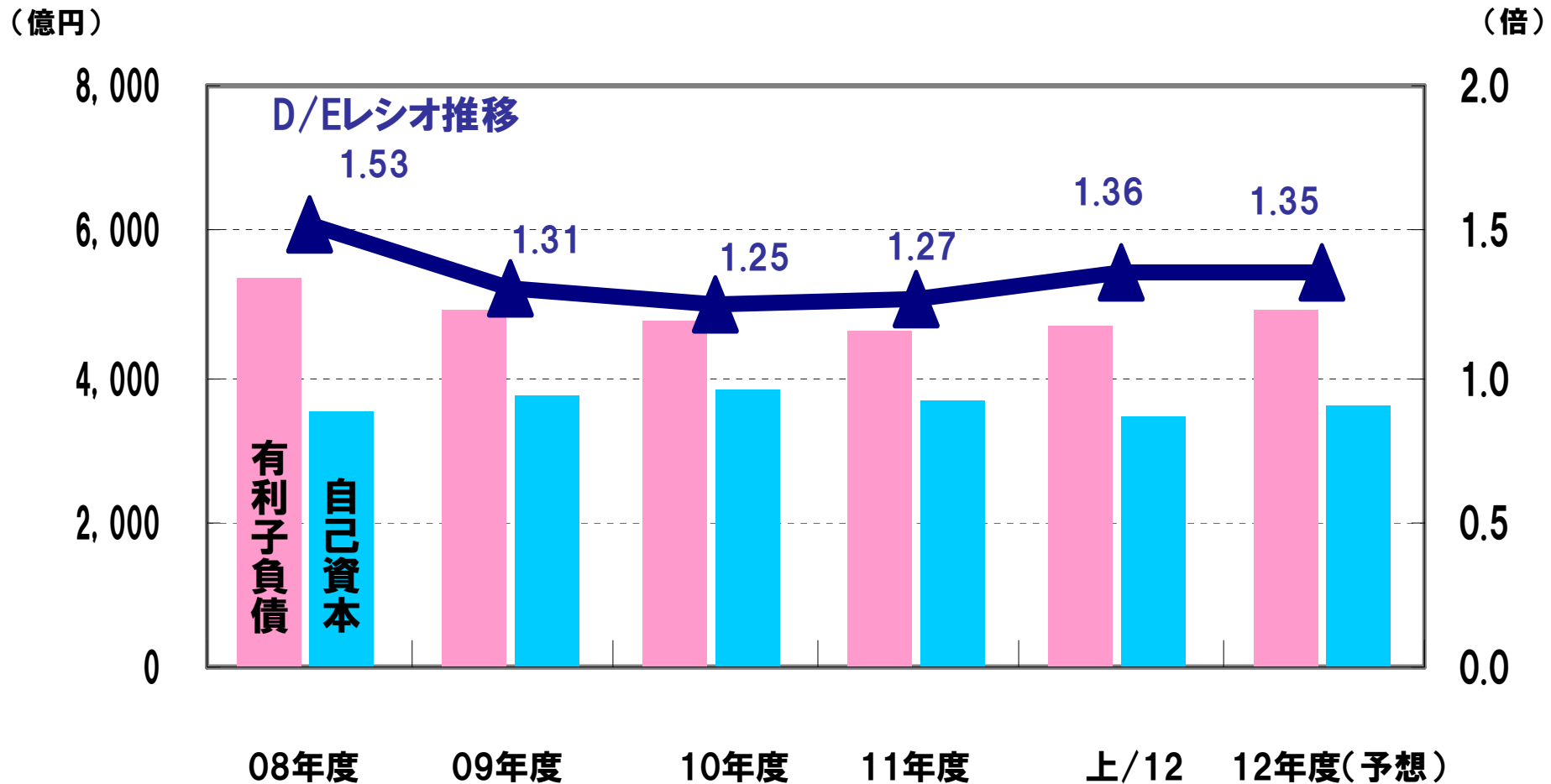
◆高付加価値ポリマー群および高機能製品群は営業利益の70%を占め、

景気変動の影響を受け難い事業ポートフォリオへ



3-7. 財務状況

財務体質とのバランスをとりながら、戦略実行



12年度配当予想

中間:3円/株、期末予想:3円/株
 ⇒年間:6円/株(DOE=1.6)

1. はじめに
2. 2012年度業績
3. 中期経営計画の進捗
- 4. 中計進捗のトピックス**
5. さいごに

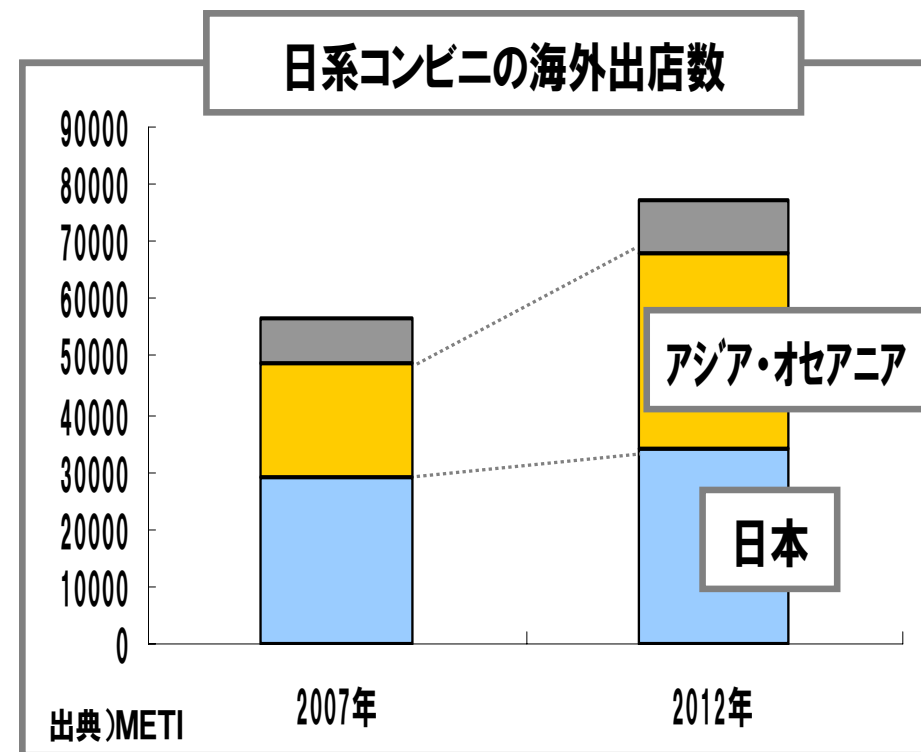
4-1. アジアでの食品包材の展開①

アジアにおけるコンビニ、スーパーの出店加速により包装資材のニーズ拡大



物流での破袋トラブル

コールドチェーンの未発達



「破れない、漏らさない、臭いが少ない」高付加価値ポリマー
 「エボリュー」と、その特徴を最大限に活かす高機能包装フィルム
 「T.U.X」の「点から線へのビジネスモデル」をアジアで展開する

4-1. アジアでの食品包材の展開②

- ◆ タイに高機能包装フィルムの拠点設立 (1.5万t 13年下期営業運転開始)
- ◆ シンガポールにエボリュエ新設 (30万t 14年12月完工予定)

高付加価値ポリマー
「エボリュエ」



高機能包装フィルム
「T.U.X」



(流通)高機能食品包装



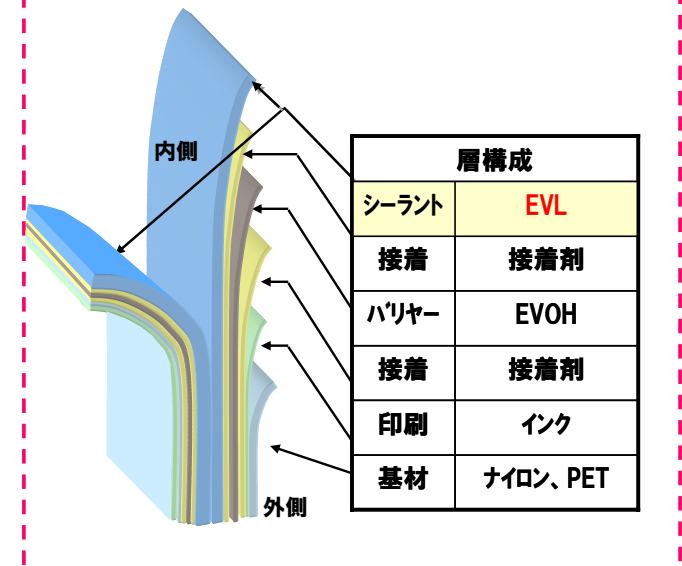
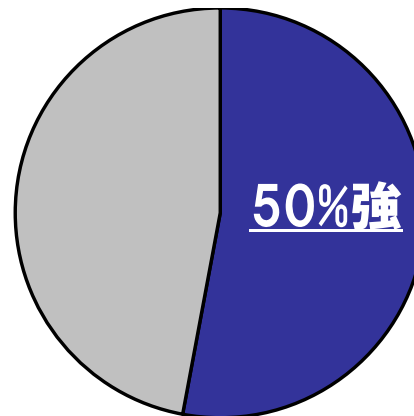
高強度
シール性能
成形加工性
低異物
低臭気

高機能シーラント

シーラント

強度フィルム

アジアシェアNo1



4-2. 自動車材のグローバル展開

◆ PPコンパウンド

- ・**ブラジル/Produmaster社買収(12年5月)**
- ・アメリカ、メキシコ、中国、タイでの能力増強
- ⇒ 生産能力74万t(10年度)から93万t(13年度末)、
世界8極体制でグローバルトップへ

◆ 機能性コンパウンド(ミラストマー、アドマー)

- ・**中国/華東地区に拠点設立(12年9月、営業運転開始14年10月)**



当社が得意とする高付加価値ポリマーと
高いコンパウンド技術によるグローバル拡大

4-3. 農薬事業のグローバル展開①

景気に左右されにくい農薬事業の拡大

「高い安全性」、「高い性能」、「低環境負荷」の特徴を持つ
農薬原体で世界の食糧問題の解決に貢献する



農薬原体のグローバル拡販は順調に進捗

- 新規農薬登録、上市が進捗
- ★ 海外営業拠点を拡充

4-3. 農薬事業のグローバル展開②

農薬原体開発のパイプライン

	農薬原体の開発				
	～1980	1981～1990	1991～2000	2001～2010	今後の上市予定～2020
殺虫剤		■ エトフェンプロックス ■ ミルベメクチン		■ ジノテフラン ■ レピメクチン	次世代農薬 5原体
殺菌剤	■ クロルピクリン ■ ヒメキサゾール		■ フルスルファミド	■ ペンチオピラド ■ シメコナゾール	
除草剤		■ ピラゾレート			



- ◆ 継続的な原体パイプラインの充実
- ◆ 全て「新規作用性」のある
次世代農薬5原体を上市予定



4-4. フェノール事業の構造改革

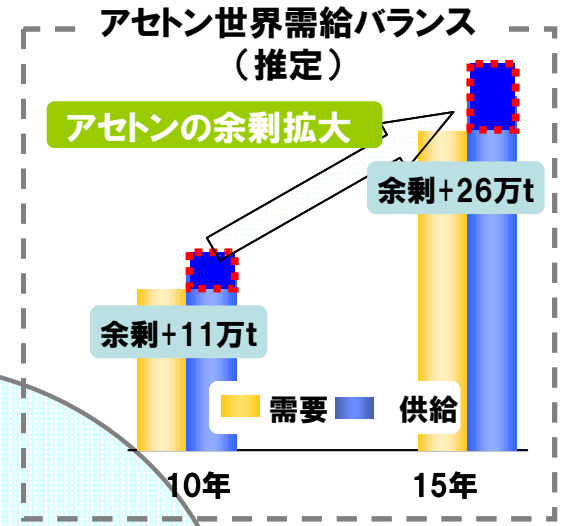
【アセトン・リサイクルプロセス】

- ・更なる増強を検討中

【アセトンの高付加価値化】

- ・アセトン法IPA新設(13年4月)
- ・MIBK強化(15年～、5万t程度)

余剰アセトン対策



誘導品強化

徹底的なコストダウン

【新規誘導品の展開】

- ・フェノール法カプロラクタム

【コストダウン】

- ・▲35億円(13年末)

【プロセス改良】

- ・世界最高のコスト競争力を持つ抜本的プロセス改良

世界トップ事業として、更なる市場プレゼンスの強化

4-5. ウレタン原料の事業再構築

◆SABIC社への技術ライセンス供与と提携

- TDI、MDI製造技術を供与合意(12年2月)
- 事業化計画:13年度末FS終了、16年運転開始予定
- 競争力あるTDI、MDIの供給拠点確保
- 合併事業へ参画も検討



◆PPG(ポリプロピレングリコール)生産効率化

- 千葉ポリオール(2.8万t)停止による2拠点化(12年6月)
- ⇒固定費削減効果 7億円/年

◆ポリウレタン材料事業の減損処理(11年度:117億円)

⇒12年度 固定費負担軽減 30億円

◆抜本的コスト構造改革(15年度目標80億円)

- 11年度:34億円達成(対10年度)
- 12年度:約50億円目標(")



市況改善も含めて、12年度黒字化を目指す

4-6. 石化事業の構造改革

◆ポリオレフィン事業(プライムポリマー)の競争力強化

①生産最適化

- ・宇部ポリプロ停止(PP:9万t、11年3月)
- ・**市原2PPプラント停止**を決定(PP:9万t、13年6月)
- ・**姉崎HDPEプラント1系列の停止**を決定(13万t、13年3月)

②徹底的なコストダウン(13年度目標100億円)

- ・11年度:46億円達成(対10年度)
- ・12年度:73億円目標(〃)



◆エチレンセンターの構造改革

①低稼働対策実施(千葉LLP)

- ・稼働70%でも経済的な稼働体制構築(13年8月)

②LLPを活用したエチレンセンターの再構築

4-7. 田原メガソーラー計画着工

◆ 国内最大級のメガソーラー

「たはらソーラー・ウインド共同事業」が着工

(12年11月着工、14年6月完工、14年10月営業運転開始予定)

発電能力 : 太陽光発電 50 MW、風力発電 6 MW

約19,000世帯の使用電力相当
(田原市総世帯の約9割)

設置場所 : 愛知県田原市(約80万m²)

総投資額 : 約180億円

参加企業 : 三井化学 35%、三井物産 15%
シーテック 10%、東亜合成 10%
東芝 10%、東レ 10%
三井造船 10%



国内外メーカーの様々なモジュールを採用し、ニーズや技術的課題を確認することで、今後の再生可能エネルギーの推進に、
素材のイノベーションで寄与する

4-8. 金属 樹脂一体加工

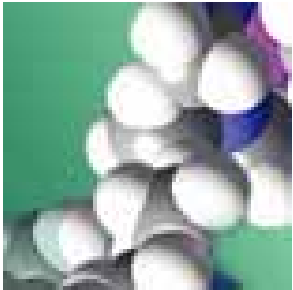
◆ ポリプロピレンと金属(アルミニウム)との一体成形技術の開発に成功

三井化学

ポリプロピレン配合技術

大成プラス

ナノモールディング
テクノロジー®



最も軽量な汎用プラスチックであるポリプロピレン
軽量な汎用金属であるアルミニウムの一体成形

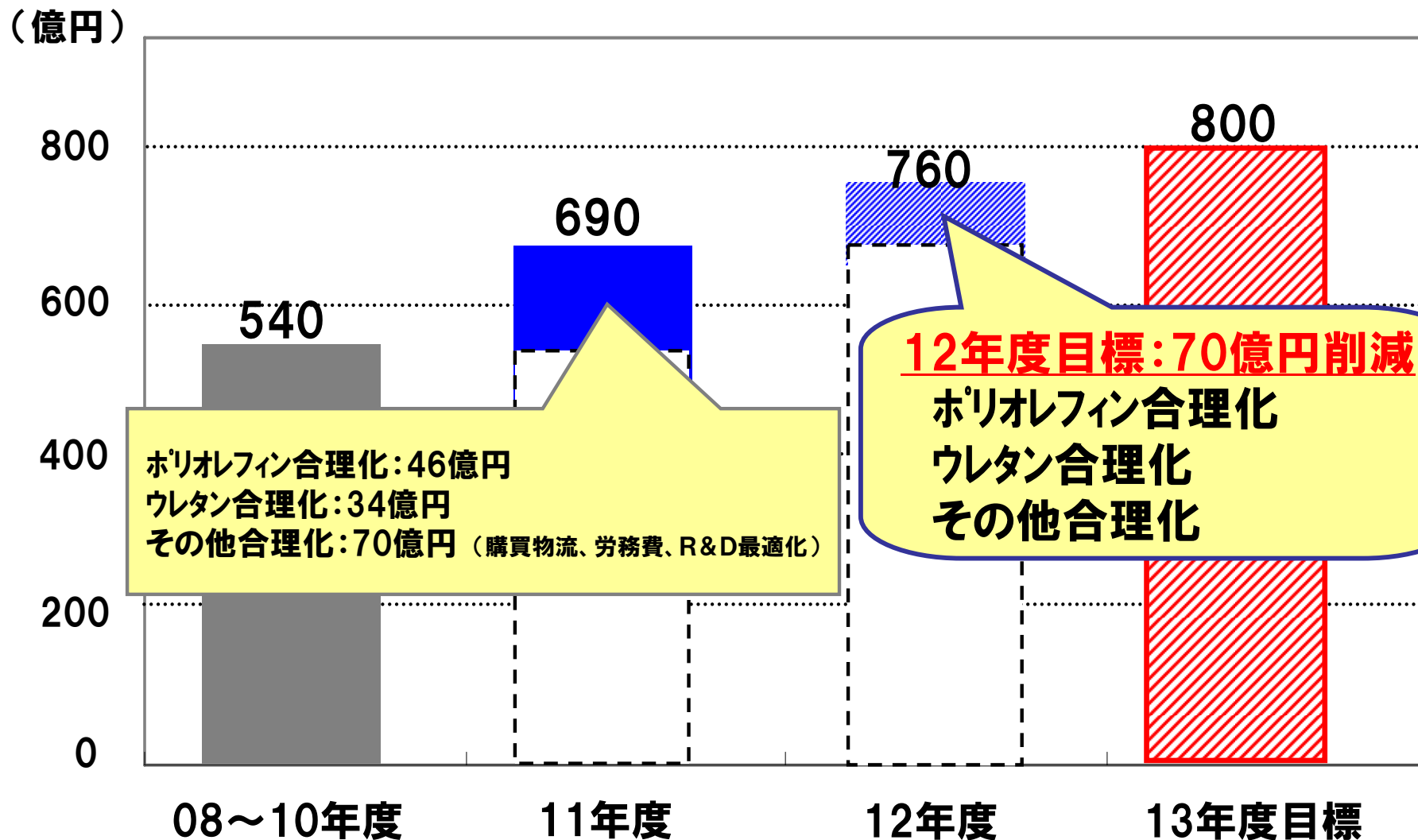
自動車、家電製品の軽量化、デザインの自由化、
コスト低減に貢献する



4-9. 全社コストダウンの進捗

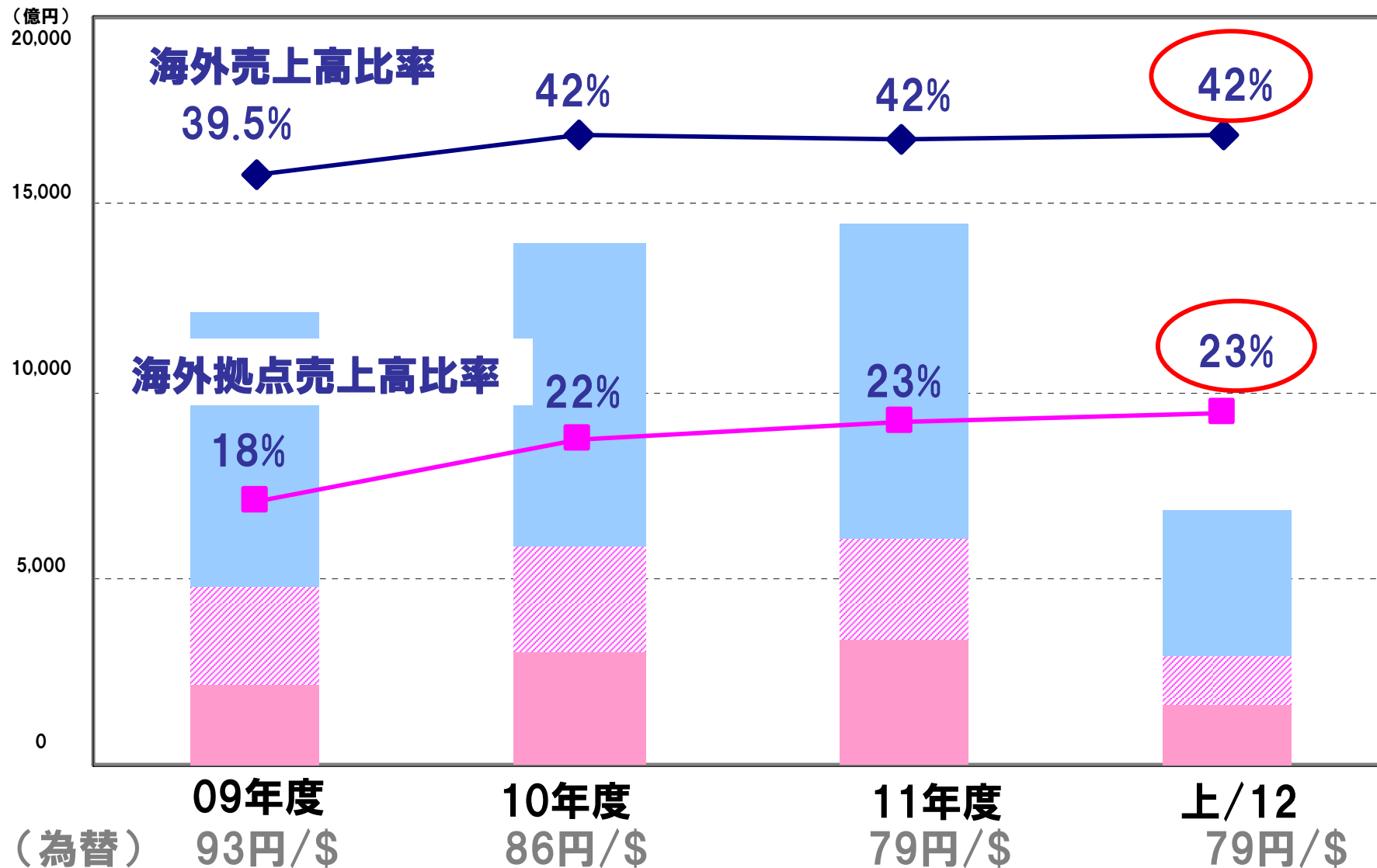
11年度コストダウン実績 **150億円**

12年度コストダウン目標 **70億円** (上期実績: 48億円)



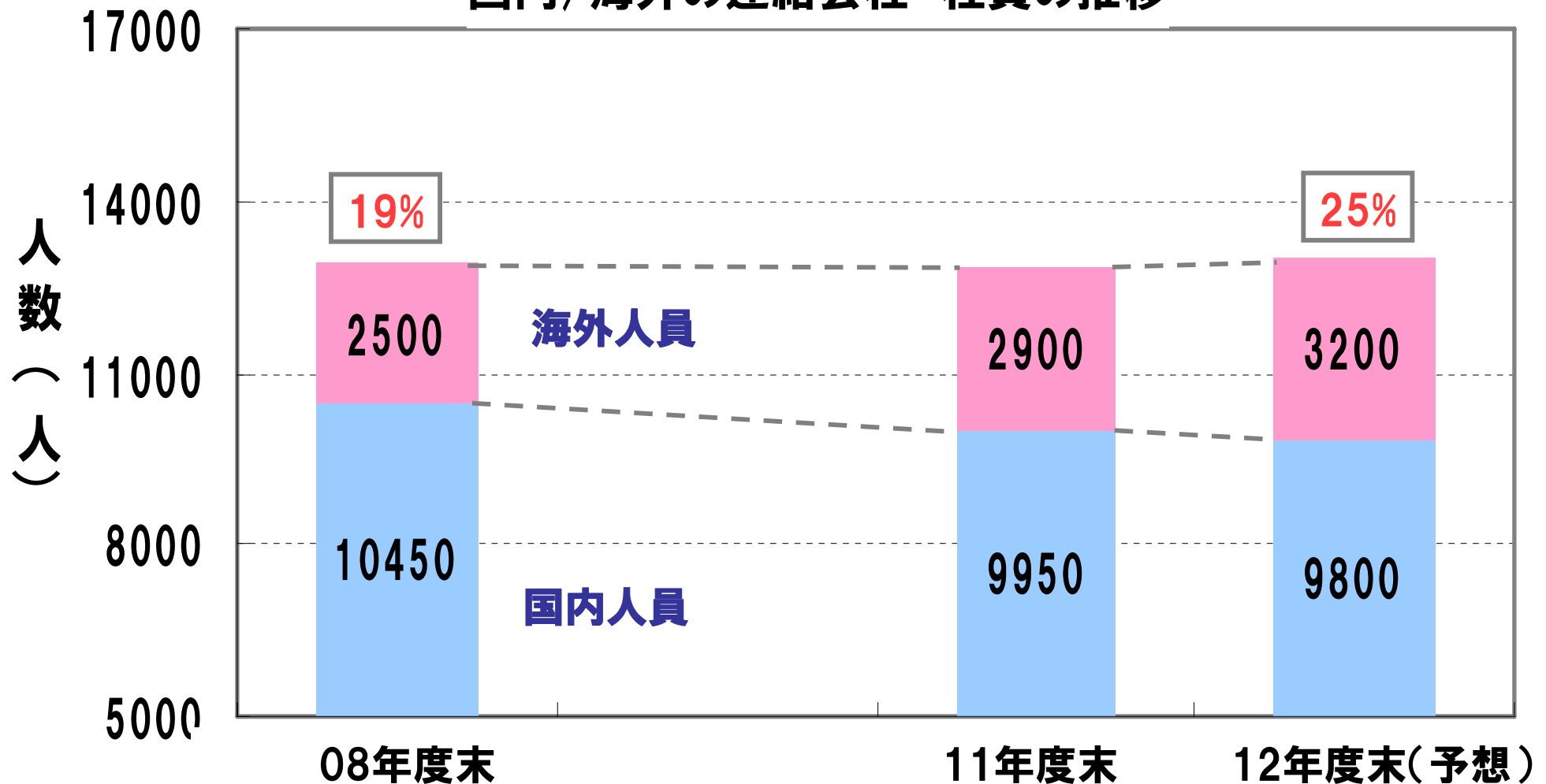
4-10. 海外売上高比率

中計目標45%達成に向けてより一層グローバル化を進める



4-11. 人員計画(連結)

国内/海外の連結会社 社員の推移



**グローバル化の進展に伴い、海外人員比率は増加
08年: 19% → 12年度末: 25%**

1. はじめに
2. 2012年度業績
3. 中期経営計画の進捗
4. 中計進捗のトピックス
5. さいごに

さいごに

- 12年度通期では**営業利益230億円**を目指す
- ポートフォリオ変革「**5-5-5戦略**」を加速させる
ため、**経営資源を3重点強化分野に集中**する
- **低収益大型事業の構造改革**を着実に実行する



MITSUI CHEMICALS, INC.

Challenge

Diversity

One Team

(完)

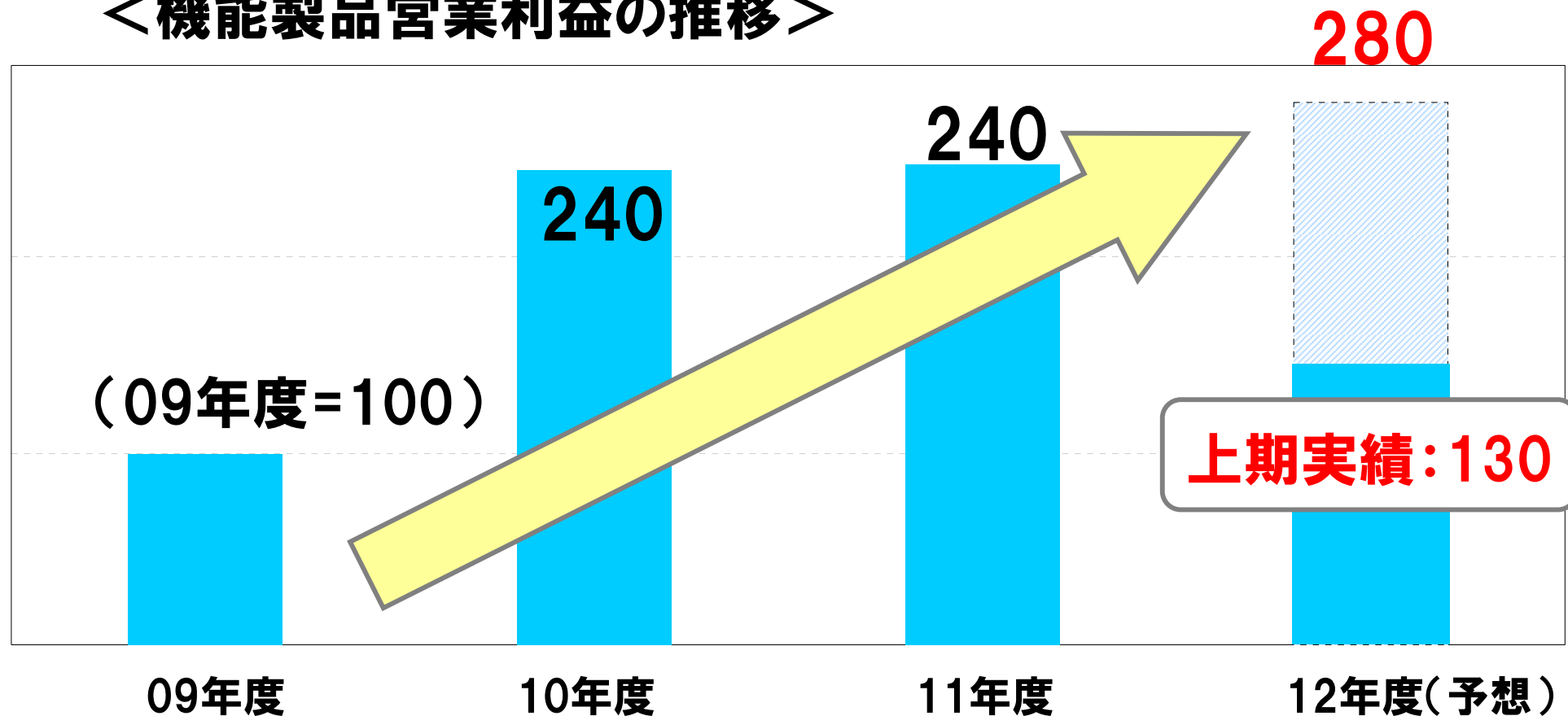
本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

(補足資料)

(参考) ポートフォリオの変革

- ・12年度も厳しい環境の中、成長を継続
- ・事業ポートフォリオの変革は順調に進捗

<機能製品営業利益の推移>



※機能製品:機能化学品事業本部、機能樹脂事業本部、コーティング・機能材事業部、フィルム・シート